

**1 学校教育目標**

○ 基礎基本を身につけ、自ら進んで学ぶ生徒    ○ 心身ともに健康で、思いやりのある生徒    ○ お互いに協力しあい、ともに向上する生徒

**2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像**

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人一人が明るく元気に活動し、個性や能力を伸ばせる学校</li> <li>・教職員が信頼し合い高め合うことにより、組織的に機能する学校</li> <li>・保護者や地域から信頼される学校</li> </ul>
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文武両道を目指し、何事にも意欲的に取り組む生徒</li> <li>・人の気持ちを考えることができ、感性豊かで豊かな人間性を磨く生徒</li> <li>・自らの生き方に自信をもち、自己実現に向けて日々努力する生徒</li> </ul>
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の生徒を人間として尊重し、良さや可能性を引き出す教師</li> <li>・指導力向上を目指し、常に自己研鑽に励む教師</li> <li>・保護者や地域から信頼され、協働して教育活動を行う教師</li> </ul>

**3 学校の現状及び前年度の成果と課題**

【学校の現状】  
 落ち着いた学習環境の下で、活発に教育活動が行われている。明るく素直な生徒が多く、学校行事や部活動等に熱心に取り組んでいる。  
 教員は、互いに協働する意識が高く、意欲的に職務に取り組んでいる。保護者や地域は、学校の教育活動や行事等の取組に大変協力的である。

【前年度の成果と課題】  
 〈成果〉・学習コンテストや各種検定の実施により学習意欲の向上が図られた。・いじめの未然防止を図るとともに、早期発見、早期解決を心がけた。  
 ・CSやPTA、そして生徒共に校門前での朝の挨拶運動に取り組んだ。  
 ・CS運営委員の方々が積極的に学校運営のサポートしていただき、PTAと共に生徒のための活動の場を設定してくれた。  
 〈課題〉・「分かる授業」を目指し、常に指導内容や授業形態の改善に努める。・きめ細かな不登校対応を推進する。  
 ・CSとして、地域の教育力を生かした教育活動や地域に根付いた学校づくりに努める。

**4 重点的な取組事項**

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	自己肯定感の育成	○	○	○	○	○
3	保護者・地域との積極的な連携によるコミュニティ・スクール活動の推進	○	○	○	○	○

## 5 令和6年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
学習意欲の向上と 確かな学力の定着		区学力調査各教科 65%以上 定着度確認テストで 正答率 各教科 65%以上		区学力調査平均 60.6% 定着度確認テスト		区学力調査の通過率平均は国語 64.2、数学 60.8、英語 56.9 と全てにおいて到達できなかった。		△	
B 目標実現に向けた取組み									
新・ 継	アクション プラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	「分かる授業」の実践	全教員	年間	「足立スタンダード」を活用した授業を行う。 授業力向上を目指し、副校長を中心に組織的にOJTに取り組む。 教師だけでなく生徒のタブレットやAIドリルの活用を図り、わかりやすい授業の実践を進める。	生徒の授業評価(わかりやすさ・ICT活用)	年度末 生徒アンケート 肯定的回答 共に95%以上	前期 肯定的回答 わかりやすさ(生徒) 9教科平均90.8% 学習用タブレット活用 9教科平均100%(教員) 9教科平均60.9%(生徒) 後期 肯定的回答 わかりやすさ 9教科平均90.9% 学習用タブレット活用 9教科平均87.5%(教員) 9教科平均74.9%(生徒)	・肯定的回答が82.9%から96.8%と教科によりバラツキがあり、平均は目標に及ばなかった。前期、学習用タブレットの活用が教員と生徒との乖離が大きすぎたが、組織的に授業改善に努め、一人一台端末やAIドリルの活用を図りながら分かる授業の実践に取り組んだ。結果、生徒の意識とし、タブレットの活用率が向上した。	○
2 継続	朝読書	全生徒	毎週 月～金 (除朝 礼時) 始業前 15分	読書習慣をつけ読解力の向上を図るため、読書を行う。	生徒生活アンケート	1か月読書0冊 回答30%以下	前期 0冊回答 36.5% 後期 0冊回答 40.0%	残念ながら目標を達成することができなかった。来年度は、読書推進習慣を設定し、改善を図る。さらに学校図書館司書として協力して図書室の活用率の向上を図っていく。	●

3 継続	放課後補充教室  自主学習教室	抽出生徒 国語 数学 英語  希望生徒 全教科	毎週月 火、木 放課後 60分  毎週金 放課後 90分	学習コンテストや各教科担任が作成した確認テスト等を行い、不合格生徒に放課後 ICT 機器などを使用して補習を行う。 自主学習教室では、教員や学生ボランティアの指導とともに生徒同士の教え合い学習を導入する。 学習教室日以外は図書室での学習できる環境を整え、自学自習の促進を図る。	区調査問題を活用した、定着度確認テスト  自主学習教室 参加生徒数	定着度確認テストで、 正答率各教科 65%以上  参加生徒数 前年度増 100名以上	1年生 国語 62.1% 数学 55.4% 英語 47.3% 2年生 国語 57.8% 数学 45.4% 英語 50.3% 前期参加生徒数 117名 (1/20 現在、14 回実施、 残り、4 回を予定) 後期参加生徒数 73 名 延べ 190 名の参加 (昨年度 149 名よりは増加)	・すべての教科で、目標を達成することができなかった。次年度に向けて授業改善や、基礎的な内容の定着をより一層図っていく必要がある。 ・自主学習教室は 20 名が登録し活用している。年間を通して、大学生による学習ボランティアの活用も図ることができた。来年度も継続していく。	○
4 継続	学習 コンテスト	全生徒 国語 社会 数学 理科 英語	年 4 回 5 月 国語 9 月 英語 12 月 社理 1 月 数学	全校で集中的に取り組む。朝補習でプリント学習に取り組ませるなど事前学習を充実させる。 80 点以上を合格とし、不合格生徒には再テストや放課後補習を行い、理解が不十分な内容の補充を行う。	コンテスト 結果	各コンテストにおいて 合格生徒 (80 点以上) 80%以上 優秀賞 (90 点以上) 60%以上 満点賞 35%以上	各コンテスト平均 合格生徒 67.0% 優秀賞 31.3% 満点賞 27.1%	・事前事後指導を、より主体的に取り組ませるよう工夫し、傾向や結果を分析し、授業で活用していく。 ・合格点に達しなかった生徒には、補充教室等で指導を継続した。 ・コンテストによって、バラツキが見られた。目標をクリアするには至らなかった。	△
5 継続	サマースクール	希望生徒 数学 英語等	夏休み 期間中 6 日間 各日 50 分×3	教科担任を中心に全教員で、基礎基本の定着を図り、理解が不十分な内容の補充、克服を行う。 必要に応じて 3 年次に 5 教科の授業を行い、入試に向けたコースも開設する。	延べ参加 生徒数	参加生徒数 前年度増 (600 名以上)	述べ参加人数 3 年 169 名 2 年 136 名 1 年 262 名 計 567 名	・各学年ともに 3 教科で実施した。目標は達成できなかったが、自主学習教室を開設し、延べ 567 名の生徒が来校して自主的に学習に取り組んだ。次年度も同様の取組を行っていく。	○

重点的な取組事項－２		自己肯定感の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
何事にも主体的、積極的に取り組む生徒の育成		生徒の学校生活評価で、取組項目の肯定的回答を95%以上にする。	前期、生徒の学校生活での満足度全学年平均92%に対し、後期、99.5%と目標を達成することができた。	後期は生徒が成果を実感できる取組を増やした結果、評価につながった。	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
ボランティア活動の充実	生徒の学校生活評価「ボランティア活動に積極的に参加している」項目の肯定的回答を90%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「五中ボランティア」で生徒への意識づけを行い、ボランティア活動へ積極的に取り組ませる。</li> <li>・事前指導や講演会により意識を高めさせ、ボランティアリーダーを育成する。</li> <li>・個人による自主的なボランティア活動を推進する。</li> </ul>	前期は、「5VT」以外の地域の行事などのボランティアに参加する生徒が少なかった。後期は、地域のボランティア活動に参加し、「ボランティア活動に積極的に参加している」項目の肯定的回答が52.4%と前期と比較し、13.7%上がったものの、目標を達成することはできなかった。	前期の反省を生かし、後期は地域等のボランティア活動の取組参加への呼びかけを行い、さらなる評価につなげることができた。	○
挨拶運動の充実	生徒の学校生活評価「自分から挨拶をしている」項目の肯定的回答を90%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会・学年委員を中心に、ほぼ毎日、木は保護者、毎月15日は地域が参加して、朝の挨拶運動を実施する。</li> <li>・小中合同の朝の挨拶運動を実施する。</li> </ul>	年間を通して、保護者や地域の方が参加しての挨拶運動も定期的に行うことができた。「自分から挨拶をしている」という肯定的な回答は85.8%と目標は達成できなかった。	目標が達成できるように、今後も積極的に挨拶ができる環境を保護者・地域の方の力を借りながら、教職員・生徒とともに作り上げていく。	○
きめ細かな不登校対応の推進	30日以上欠席生徒数を前年度より減らす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SCやSSW、関係諸機関との連携を積極的に図り、全教員で情報を共有しながら組織的に対応する。NPO法人の連携事業の活用を図りながら減少を目指す。</li> </ul>	今年度は欠席30日以上生徒数が25名と昨年度より若干増加した。しかし、学校に全く来られない生徒は0名で、担任による家庭訪問や関係機関との連携によって学校との接点がない生徒はおらず、この関係性は今後も続けていく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も、教員が生徒と丁寧に関わり合い、家庭との連携を密に行っていく。</li> <li>・関係諸機関や今年度からのNPO法人との連携事業も積極的に活用を図っていく。</li> </ul>	△

生徒の実態把握	「こころの声」を毎月実施する。	・「こころの声」で生徒の変容を把握する。学年の教員を中心に全教員で供覧し、情報の共有化を図る。	「こころの声」では毎月朝礼後に実施している。引き続き全教員で供覧し、情報の共有化を図る。	「いじめ0」を目指して、工夫を重ねながら今後も未然防止・早期発見・早期解決に向けて取組を継続する。	◎
「いじめ0」運動の推進	生徒による「いじめ防止のキャンペーン」を実施する。	・生徒会本部や専門委員会を主体に、いじめ防止について取り組ませ、いじめ0を目指す。	後期に、生徒会による給食時の動画での呼びかけを行う。	生徒の実態を把握し、生徒との意思疎通を図る。	●

<b>重点的な取組事項－3</b>	保護者・地域との積極的な連携によるコミュニティ・スクール活動の推進
-------------------	-----------------------------------

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
保護者・地域からより一層信頼される学校づくり	保護者・地域の学校評価で、「学校への満足度」の肯定的回答を90%以上にする。	学校評価での「学校への満足度」の肯定的回答は、前期の83.8%から、後期、93.4%へ上がり目標を達成することができた。	後期は、保護者のニーズを捉え、信頼回復に努め、一定の成果を得ることができた。	◎

<b>B 目標実現に向けた取組み</b>
----------------------

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
地域でのボランティア活動の活性化	地域ボランティアへの延べ参加数を200名以上とする。	・地域行事や避難所運営訓練等へのボランティア生徒を積極的に募り、地域との交流を図らせる。 ・地域の住人の一人として自覚させ、自分の役割について考えさせる。	年間を通して、お祭りなどの地域行事を開催していただくことができ、ボランティアとして延べ117名の生徒が参加することができた。残念ながら、目標は達成できなかった。	来年度も、地域と連携し、様々な行事にボランティアとして参加し、生徒の自己有用感の向上を図っていく。	○
意見交換会の実施	CS運営委員と生徒及び教員との意見交換会を各1回実施する。	・生徒や教員の声地域に直接届けるとともに、地域から学校への要望を直接聞く会を実施する。 ・課題を共有しながら今後の教育活動を考えることにより、連携を深める。	前期、教職員の意見交換会は1回実施することができた。ここで聞いた意見をCS会議で話し合い、課題を共有することができた。お互いに意見を出し合うことで、連携が深まった。	今後は、生徒との意見交換会を実施する。出された意見を十分に検討し来年度の教育活動に取り入れていく。	◎

CS「協力し隊」活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域参観日を月2回以上実施する。</li> <li>・教育活動支援を発展させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域による授業参観の取組を継続する。課題を共有し、教育活動に生かしていく。</li> <li>・書写指導補助等、教科内容を踏まえた取組の充実を図る。</li> </ul>	地域参観日年間8回予定し、予定通り実施することができた。昨年より多くの方の参加を頂き、学校を知っていただき大変好評だった。	地域授業参観では、多くの方に学校の様子を見ていただくことができた。「協力し隊」へのアプローチが今後の課題である。	○
---------------	---------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------	---

## 6 まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

#### 重点的な取組事項－1 学力向上

##### 【課題】

- 「書くこと」に対する苦手意識があり、基本的な文法ルールや単語の定着が不十分。特に語順の並び替えや英作文が課題となっている。
- 「図形」や「データの活用」といった領域に課題があり、応用的な問題や記述式問題での正答率が低い。
- ◎漢字の書き取り及び本文の内容を踏まえた文章作成に課題があり、「何を」「どのように」書くべきかを問題文から正しく読み取る力が不足している。

##### 【対策】

- AIドリルを活用し、語順の並び替えや簡単な英作文から始め、自分の意見を表現する練習を段階的に進める。
- 英単語を口に出して学習し、リズムや反復練習を通じて定着を図るとともに、単元ごとの単語テストやスペリングコンテストを実施し、生徒の定着度に応じた課題を提供する。
- 放課後補習や家庭学習で、生徒一人一人の習熟度に応じた課題に取り組みせ、復習の機会を増やす。
- 授業内でAIドリルを活用し、既習事項の定着を図る。
- プリントやAIドリルを併用し、生徒一人一人の理解度に応じた課題を設定して、家庭学習や宿題に取り組みせる。
- 生徒同士の教え合い活動を実施し、基礎的な内容の習得を促すとともに、苦手意識の軽減を図る。
- ◎朝読書の取組を継続し、教科書以外の文章に触れる機会を増やす。また、学級文庫や図書館の活用を図る。
- ◎授業内でミニ作文の作成機会を設け、書くことへの抵抗感を軽減する。
- ◎漢字や文法に関する定期的な小テストを実施し、その結果に基づいた復習や補習を行い、基礎知識の定着を図る。

#### 重点的な取組事項－2 自己肯定感の育成

- ・「本校の特色は挨拶とボランティア活動」と考えている生徒が多い。朝、校門で挨拶をすると、多くの生徒から気持ちのよい挨拶が返ってくる。しかし、年度当初に掲げた「自分から、いつでも、だれにでも、何度でも」という目標に対し、生徒一人ひとりが自ら積極的に行動する点では課題が残った。また、ボランティア活動において、前期は教員のアナウンスや働きかけが不足し、学校評価で不本意な結果となったが、後期には生徒が積極的に活動に協力する姿が見られた。今後は、生徒が自ら積極的に取り組む意識を育てるとともに、地域でのボランティア活動の募集方法についても、声掛けだけでなく、ポスター作成などの工夫を取り入れ、達成感や成就感を味わえる機会を増やしていく。
- ・不登校対応については、関係諸機関との連携や別室登校など、個々に応じた対応を行い、一定の効果が見られた。今後も、生徒と丁寧に関わり合い、家庭との連携を密にしていく。
- ・生徒会発信番組による「ゴチュウナンデス」の呼びかけや「いじめ防止キャンペーン」を展開し、いじめの未然防止・早期発見・早期解決に努める。また、「ログ」や「こころの声」を活用して生徒の実態把握を行い、教員間で生徒理解と情報の共有を図ることができた。

### **重点的な取組事項－3 保護者・地域との積極的な連携によるコミュニティ・スクール活動の推進**

- ・学校では、アフターコロナというよりは、ウィズコロナの中でできる限り多くのコミュニティ・スクール（CS）の活動を行うことができた。また、今年度も地域・保護者の皆様のお力をお借りして「ハピフェス」を盛大に実施することができた。次年度は、学校側からの出店や、できるだけ多くの教員が参加・協力できる意識ある組織の醸成を目指し、教育活動の支援をさらに発展させていく。
- ・土曜スクールは予定通り実施することができた。これもひとえに、CS や PTA の皆様方のご協力の賜物であり、コミュニティ・スクールとしての取組に深く感謝している。
- ・学校だけでなく、地域のボランティア活動に参加した生徒は、積極的に取り組むことができた。次年度は、ボランティアマインドを醸成する講演会を開催し、ボランティアに参加する意義を生徒に理解させるとともに、地域のボランティア情報を積極的に周知し、参加生徒を増やす取組を進めていく。

#### **（２）保護者や地域へのメッセージ**

保護者や地域の皆様には、日頃より本校に対し様々なご尽力を賜り、心から感謝申し上げます。今年度、運動会や文化祭といった二大行事では、多くの保護者や地域の皆様にご来場いただき、生徒が活躍する姿をご覧いただくことができました。また、生徒や教職員への声掛けなどをいただき、大変励みになりました。

次年度はさらに開かれた学校を目指し、多くの方に学校生活をご覧いただけるよう準備を進めて参ります。本校は、これまでの良き伝統を継承するだけでなく、変化する社会に対応できる人材の育成を目指し、ICT の活用など教育活動をさらに充実・発展させ、教職員一丸となって新しい伝統の創造に取り組んでいきます。

具体的には、「君たち一人ひとりが主人公」というスローガンのもと、全教職員が連携・協力し、生徒が主体的に活躍できる場面を意図的に設けるなど、「一人ひとりの生徒を大切にし、きめ細やかな温かみのある指導」を行っています。これにより、生徒全員が「第五中学校に通ってよかった」、保護者の皆様が「第五中学校に通わせてよかった」と実感していただける学校づくりに励んでいます。

また、コミュニティ・スクールとして地域との連携を強化し、地域力を活用した教育活動の活性化を図っていきたいと考えています。生徒の健全育成のためには、保護者・地域・学校の連携が何よりも大切です。今後ともご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

#### **（３）その他（学校教育活動全般について）**

- ・今年度掲げた重点的な取組事項については、着任1年目ではありましたが、ほぼ実施することができた。
- ・日々の学習指導では、「分かる授業」の実践を目指し、授業を行っている。生徒も落ち着いた雰囲気の中で授業を受けている。しかし、学習指導要領で掲げられている「主体的・対話的で深い学び」の実現には、教員がこれまで以上に授業改善へ取り組む必要がある。全国や区の学力調査、定期考査などを分析し、生徒のつまずきを把握したうえで、補充教室や学習コンテスト、サマースクール、家庭学習等の取組を通して、継続して学力向上を図っていく。また、一人1台端末の活用を進め、紙媒体での指導に加えて、AIドリル（例：キュビナ）なども活用し、アナログとデジタルを融合させた基礎学力の定着を図っていく。
- ・生活指導では、「生活指導提要」の共通理解のもと、教員間での共通認識や同一步調による、力に頼らない指導を徹底していく。また、ボランティア活動や挨拶運動を通じて、生徒の良さを認め、自己肯定感や自己有用感を向上させていく。今年度、生徒たちは学校行事や生徒会活動、部活動などに意欲的に取り組んだ。来年度も、地域の行事への生徒参加を促し、将来地域の担い手となる生徒の育成を支援していく。一方で、不登校生徒の減少は課題が残っているため、一人ひとりに適したアプローチが求められる。
- ・次年度は、今年度の成果と課題をもとに、教育活動の改善を組織的に進めていく。教員の指導力向上を図るとともに、小中連携を推進し、保護者・地域・学校が一体となり、生徒一人ひとりの個性を伸ばしながら、学力向上や自己肯定感の育成を進めていく。